



ふじ美が原

富士見中学校

3学期始業式 校長講話

特集：3学期始業式

「1年生は真の富士見中生に、2年生は学校の顔に、3年生は進路の実現に向けて全力を尽くす学期に」

3学期始業式では、各学年の生徒代表の決意表明に続き、校長講話がありました。

「しめくりと準備、願いの達成を」

学校長 曾根原 好彦

明けましておめでとうございます。平成三十年が、皆さんにとって素晴らしい年となるよう、祈っております。本年もよろしく願っています。ただいまは、一年生の岡田さんが、「自分を変える」ということについて部活や合唱など、具体的な例を挙げて発表してくださいました。二年生の小林さんは、生徒会への参加や清掃について、三年生への感謝も込めて発表してくださいました。また、三年生の植松さんは、大切にしたい三つのこととして、人として学ぶこと、クラスのこと、二年生のことを、一瞬を大事にしたいという視点で発表してくださいました。

さて、二学期の終業式で、富士見中にはたくさんのお宝があり、その宝を創り出しているのは、一学期の終業式に話をした皆さんの一流の姿である、とお話ししました。また、富士見中学校の生徒の皆さんがさらに一流になることを願う、「心を配る」ことについて話をしました。ドイツニーランドのエピソードを紹介しましたが、覚えていますか？覚えていない人は手を挙げてください。

【多くの生徒が挙手】で、この冬休みに、家で、家族に、「心を配る」言葉がけや行動が取れたという人はどの位いるでしょうか。手を挙げてください。【二割ほどの生徒が挙手】三学期が始まりますが、今度は、是非、学級や学年、委員会活動や係活動、部活動などの場で、心を配る自分を、実現させてください。

さて、本日から、三学期が始まります。今日は、それぞれの学年の皆さんに、願いを伝えます。最初に、一年生の皆さん。一年生の皆さんは、「真の富士見中生」となることを目指して下さい。富士見中にはたくさんのお宝があります。その宝は、自然に創られるものではなく、今ここにいる全校生徒で創り上げていくものです。それは、先輩から後輩へと、代々受け継がれていくものです。一年生の皆さんは、あと三ヶ月後には、先輩となり、新一年生を迎えます。富士見中の宝を新一年生に継承するのは、皆さんです。挨拶、合唱、清掃など、富士見中の宝について、是非、新一年生の手本となるよう、自分を磨き上げ、真の富士見中生となる三学期にして下さい。

次に、二年生の皆さん。皆さんは、「富士見中の顔」となってください。先輩である三年生は、挨拶でも、合唱でも、清掃でも、皆さんより上です。その先輩と接することができるのは、今日を入れて、あと四十七日間のみです。生徒会も引き継ぎました。もう自分たちの力で、三年生のように、生徒会の運営ができるでしょうか。三年生のいる間に、多くを学び、分からない

ことは質問し、富士見中の顔となつて、来年度の富士見中を引っ張っていく準備をしてください。

最後に、三年生の皆さん。自分の目指す進路の実現に向けて、最後まで走り抜けてください。最初に、推薦入試を目指している皆さん。以前、私が担任しているクラスに、推薦で合格をした生徒がいました。その生徒は、合格しているにも関わらず、これから入学試験が控えている生徒と変わらないくらい猛勉強を続けていました。担任である私が、「もう合格をしているのに、すごく勉強を続けていて立派だね」と声をかけると、その生徒は「推薦だからこそ、高校に入学をして、試験で合格してきた人より、勉強ができなかったら恥ずかしい。それに、推薦をして下さった学校に迷惑をかける」と言いました。私は、正直驚きました。合格したら、もう気楽に、勉強をしなくなるのが普通だと思っていたからです。その生徒を見直しました。ちなみに、その生徒は、高校で優秀な成績を収め、一流大学へ推薦で進学をしました。三年生の中には、推薦入試で合格をもらう人がいると思います。合格後は、高校進学に向けた準備を、しっかりと進めてください。学校から推薦を受けた意味を考えて、残りの学校生活を



最後に、三年生の皆さん。自分の目指す進路の実現に向けて、最後まで走り抜けてください。最初に、推薦入試を目指している皆さん。以前、私が担任しているクラスに、推薦で合格をした生徒がいました。その生徒は、合格しているにも関わらず、これから入学試験が控えている生徒と変わらないくらい猛勉強を続けていました。担任である私が、「もう合格をしているのに、すごく勉強を続けていて立派だね」と声をかけると、その生徒は「推薦だからこそ、高校に入学をして、試験で合格してきた人より、勉強ができなかったら恥ずかしい。それに、推薦をして下さった学校に迷惑をかける」と言いました。私は、正直驚きました。合格したら、もう気楽に、勉強をしなくなるのが普通だと思っていたからです。その生徒を見直しました。ちなみに、その生徒は、高校で優秀な成績を収め、一流大学へ推薦で進学をしました。三年生の中には、推薦入試で合格をもらう人がいると思います。合格後は、高校進学に向けた準備を、しっかりと進めてください。学校から推薦を受けた意味を考えて、残りの学校生活を

を過ぎてほしいと思います。

さて、入学試験を受ける皆さん。「自分の生活には勉強しかない」という経験を創ってください。長い人生を振り返り、「あの時は、本当に勉強をした」と言い切れる生活に挑戦してください。休日は、一日十三時間勉強できません。睡眠とフロ、食事以外、全部勉強です。トイレでも、大便の時は、勉強できます。人生で、勉強しかない、という経験をすることも、後の人生に生きてきます。入学試験で、一問正解するだけで、受験生を二十人から三十人抜くこともあります。その二点を積み上げるために、日々勉強します。「何をどのよう勉強したらよいのか」とか、「この問題ほどのように解けばよいのか」など、困ることがあれば、友だちや先生に相談して下さい。先生方は、自分自身が受験を経験している先輩です。また、多くの生徒の受験に関わってきていますから、その道のプロです。どんな質問をして下さい。

しかし、勉強に真剣に取り組みだしてから、その努力が点数に反映するのは、約一ヶ月後です。ですので、今から取組をさらに充実させれば、二月の最後の総合テストに、その努力が表れます。最後まで走り抜けることを期待しています。

以上、それぞれの学年の皆さんに、校長からの願いを伝えました。三学期は四十七日間で、あつという間に過ぎます。今年度の締めくくりをするともに、新年度の準備を的確に進められるよう、皆さんを見守っています。

素敵な絵を 寄贈いただきました

「富士見高原」

小松秀雄 作



【管理棟2階
会議室前踊り場
(保健室前の階
段を2階に上っ
た所)に展示】

小松秀雄 諏訪市出身 春陽会所属 高橋貞一郎に師事
数多くの展覧会で入選し、「一水会展」では特別賞「安井曾太郎奨励賞」を受賞し、日展にも3年連続入賞するなど、将来を大変期待された若き画家であった。
1962(昭和37)年絵の勉強のためにヨーロッパ留学を行う手続きのために上京した際、火災に遭い37歳の若さで亡くなる。

日頃より、富士見中学校を応援していただき、様々な面で大変お世話になっている前白鈴会会長(富士見中学校同窓会長)の細川忠國様より、素敵な絵画をいただきました。ずっとお家に飾っていた絵ですが、自分の家にあるよりも、富士見中で多くの生徒に見てもらった方がよいだろうとのお考えで、寄贈して下さいました。

絵画右にあるのは、この絵の裏に書かれている文字の写真ですが、小松秀雄さんがこの作品を「一水会」という展覧会に出品したことが分かります。この「一水会」は、昭和十一年に有島郁馬や安井曾太郎ら、超有名実力派の画家たちによって作られた会であり、その展覧会は、八十年以上経つ現在も、大変高いレベルを維持し、画家を目指す多くの人が目標としている展覧会となっております。

美しいブルーを基調とした色遣いで、わたしたちが暮らす富士見の街、それを見守るかのようにとっしり構える八ヶ岳、そして雄大な空を、少し高い所から俯瞰するアングルから捉えた「富士見高原」。作者の小松さんの人生や夢、思いにも想像をめぐらせながら、遠くから近くから、いろんな角度からじつくりと眺めてみて下さい。

細川様、素敵な絵をありがとうございました